



国指定史跡

河越館跡

かわごえやかたあと

河越館跡は、平安時代の終りころから南北朝時代の中ごろまでの約二百年の間、武蔵国で大きな勢力を誇った在地領主の河越氏の居館跡です。

河越氏は、相模平氏・父氏の流れを汲む一族で、平安時代の終りころ、この地に館を構え、河越氏を名乗りました。

治承四年(一一八〇)、源頼朝が伊豆で華兵すると、河越氏は初め敵対しましたが、後に御家人となって平氏討伐軍に参加します。このころの河越氏の勢力は、重頼の娘が源頼朝の第義経の妻に選ばれたことから推し量る

ことができます。おそらく奥入の目、重頼の娘は、お供の者たちと河越館から都の義経のもとへ向かったことでしょう。ところが、後に義経と頼朝の仲違いから、義経側者である事が通じて、重頼らは滅ぼされ、河越氏の勢力はここで一時衰えます。しかし鎌倉時代中ごろ高野山に町を建てたことで加えられる経重のころには、かつての勢力を回復しつつありました。

鎌倉時代の後半になると、館の中に時常楽寺が開山され、河越館は大きく発展します。後に時宗十五代上人尊忠が討れ、南無阿弥陀仏決定往生六十万人と書かれた念珠を配り大勢の人々で賑わうこともあったよう

です。

応安元年(一三六八)、突然河越氏や高野氏ら平一揆が河越の館にたてこもって鎌倉府に反旗を翻しますが、あえなく敗れてしまいます。これ以降、河越氏は政治の表舞台からは姿を消し、河越氏と館の関係も影を閉

じることになりました。

戦国時代になると、関東管領山内上杉氏が川越城の扇谷上杉氏に對抗する

ために、かつての河越館を含むこの周辺に陣所、土塁跡を構えたことが知られます。現在指定地の西に残る土塁はその頃の遺構と考えられます。

昭和五十九年十一月六日指定  
川越市教育委員会

作品番号 : 41300536

作品タイトル : 河越館跡

作家 : 小川 喜一郎

キャプション : 国指定史跡

コレクション : OPO

ソース :

撮影地 : 埼玉 川越市

撮影年月日 : 2013/2/5

学術名 :

クレジット表記 : (c)OPO / Artefactory

モデルリリース : なし

プロパティリリース : なし

ピクセル数 : 3968px × 2976px

印刷サイズ : 28.8cm × 21.6cm

データサイズ : 7.5MByte

ファイル形式 : JPEG